

3 指導案作成にあたって

1 指導案とは・・・？

指導案は、教師が授業の前に立案し、一定の様式に基づいて書かれた授業のシナリオです。指導案には、研究授業や授業公開のときになどに示す詳細なものから、授業の流れを示した略式のもの（略案）があります。

P D C Aサイクルの授業づくりにおいては、計画<Plan>の段階にあたります。（21 ページ「特別支援学級等の授業づくり」参照）作成した指導案をもとに、授業を実施<Do>し、実施した授業を指導案に照らして評価<Check>し、改善<Action>していきます。指導案は、授業改善を効果的に進める上で、重要な役割を担っています。

2 指導案を作成するよさ



【指導案作成上の留意点】

- 目標設定の視点として、障害に基づく困難さだけを指摘するのではなく、児童生徒の実態に応じて、どのような手立てを講じれば、その目標を達成することができるか、という視点を持ちましょう。
- 目標達成のために必要な能力や技能等について、一人一人の実態を十分に把握しておきましょう。
- 個別の目標を設定し、学習内容の計画を立てましょう。学習活動は一つでも課題は一人一人の実態に応じて個別に用意しましょう。
- 一人一人の課題について、指導者の配慮事項や支援の手立ての計画を立てましょう。

3 指導案作成のポイント

(1) 各教科(国語・算数等)の指導案の例

〇〇障害特別支援学級(学級名) 〇〇科学習指導案

指導者 〇〇 〇〇

1 単元(題材)名

- 〇児童生徒の視点に立った表現を工夫する。
 - ・活動がイメージしやすいような表現
 - ・活動の意欲が高まるような表現
- 【例】「かぞえてみよう」・・・算数科
「漢字カルタであそぼう」・・・国語科
- 〇教科書の章や節を単元(題材)名とする場合もある。

複数の時は
T1 〇〇 〇〇
T2 〇〇 〇〇

2 単元(題材)について
本学級は、

〇単元(題材)観, 児童生徒観, 指導観の順に記述することもあるが, 特別支援学級等においては児童生徒の実態から指導計画を立て, 単元(題材)を設定していくことから, 児童生徒観から書き始めることが望ましい。

本単元(題材)では、
指導にあたっては、

- 【児童(生徒)観】
 - ・人数, 学習集団としての実態, 児童生徒の認知特性や行動特性, 単元(題材)に対する興味・関心や経験, 単元(題材)の目標に関して学習内容の系統性の観点からこれまで身に付けてきた力やまだ身に付けていない力など, 児童生徒の実態を記述する。
- 【単元(題材)観】
 - ・学習指導要領における単元(題材)の位置づけ, 単元(題材)の内容分析や価値, 既習事項との関連などを記述することで, 身に付けさせたい力を育成するのに適した単元(題材)であることを示す。
- 【指導観】
 - ・児童(生徒)観や単元(題材)観の記述を踏まえて, どのような単元(題材)構成にするのかを概観できるよう, 以下の点を中心に記述する。
 - －本単元(題材)ではどのような力を育成するのか。
 - －その力を育成するために, 児童生徒の実態(特性や興味・関心, 既習事項など)からどのような教材や学習活動を組み合わせて単元(題材)を構成するのか。
 - －その力を育成するために, 児童生徒の実態(特性や興味・関心, 既習事項など)からどのような支援の手立てを講じるのか。

3 単元(題材)の目標

- ・学習指導要領をふまえ, 全体の指導目標を学習集団全体としての実態と個別の実態を踏まえながら記述する。実態によっては, 個別の目標のみの場合もある。
- ・目標は各教科の観点(「関心・意欲・態度」, 「思考・判断」, 「技能」, 「知識・理解」等)をふまえ記述する。観点別に記述する場合と, すべての観点について総括的に記述する場合とがある。

4 児童(生徒)の実態と個別目標

	単元(題材)における実態	単元(題材)における目標
A	<ul style="list-style-type: none"> ・単元(題材)に関する実態を, 行動面(学習態度や取組の様子, 認知特性や行動特性等)と学習面(学習レディネス等)の両面から記述する。 ・できることに着目して何がどこまでできているか, どんな方法ならできるかを記述する。 ・人数が多い場合は, 学習内容等を項目に分けて, ◎ ○△等で表記してもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この単元(題材)において, どのような力を身に付けさせたいかについて記述する。 ・個別の指導計画の短期目標とのつながり(整合性)を意識して記述する。
B		
C		

5 指導計画と評価(〇〇時間扱い)

第1次 〇時間
第2次 〇時間

- ・単元(題材)で指導する内容及び時間数を示す。
- ・本時の授業に関わる第〇次については, 具体的な計画を示し, 本時の前後にどのような指導をするかが明らかになるように書く。

時	主な学習内容・活動	主 な 評 価		
		A	B	C
1	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような内容を学習するのか, 主なものを記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの時間でそれぞれの児童生徒にどのような力を身に付けさせたいかが明らかになるような評価規準を, 具体的に記述する。 		
2				
2 (構)				

6 本時の指導

(1) 目標

ア 全体目標

○ …… することができる。

イ 個別目標

A : ○ ……

B : ○ ……

C : ○ ……

- ・集団に関わる目標を記述する。
- ・単元（題材）の目標との整合性を意識する。

- ・単元（題材）の個別目標との整合性を意識する。
- ・内容、方法、達成度を、誰が評価しても同じ評価ができるような具体的な行動目標で記述する。

☞ 授業づくり編Ⅱ-①「実態把握、目標設定の工夫」の「目標設定の工夫」参照

(2) 準備・資料

- ・全体と個別に分けて記載することが望ましい。個別の欄には、学習活動、指導上の留意点、個に応じた支援の手立てを示す。

(3) 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価 (◎評価)			
	全 体	A	B	C
1 ……				
2 ……				
3 ……				
4 ……				
5 ……				

- ・学習意欲が喚起できるような課題提示を行う。

- ・児童生徒が、本時のめあてを意識し、学習の見通しがもてるようにする。

- ・話し合う、考える、作業をする、調べるなど多様な活動ができるようにする。
- ・児童生徒の活動時間を多くとる。

- ・学習内容を整理しながら、本時の学習を振り返り、学習の成果を児童生徒が実感できるようにする。
- ・次時への見通しがもてるようにするとともに、意欲が高まるようにする。

- ・個に応じた支援の手立ては以下の点に留意して、記述する。
 - －児童生徒のつまずきを予想し、それに対応するための支援の手立てを具体的に記述する。
 - －「励ます」「言葉かけをする」といった支援のほかに、一人一人の児童生徒の実態を踏まえて、得意な面を生かし苦手な面を補えるような内容も、具体的に記述する。
 - －個別の教育支援計画に記載してある合理的配慮の内容を反映させる。
 - －児童生徒の実態を踏まえた賞賛の仕方についても具体的に記述できるとよい。
 - －チーム・ティーチングにて授業を行う場合は、教師間の役割分担についても記述する。

・教材・教具などは写真や絵図で示すことも考えられる。

- ・学習の方法、手順に基づき、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

- ・どのような場面で、どのような方法で、どのような観点で評価するかが分かるよう、具体的な評価規準を記述する。
- ・評価は授業の終末だけでなく、途中においても行うことで、本時において目標が達成できるようにする。

・合同授業の場合、学級・教室毎に指導案を作成する。
ただし、展開は合わせて作成してもよい。

(2) 小集団による自立活動の指導案の例

〇〇障害特別支援学級（学級名）自立活動学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 題材名

- ・児童生徒の視点に立った表現を工夫する。
 - －活動がイメージしやすいような表現
 - －活動の意欲が高まるような表現
- 〔例〕「なかよくなろう！大作戦」「お話ししよう」

複数の時は
T1 ○○ ○○
T2 ○○ ○○

2 題材について

本学級は、
.....
.....
.....
本題材では、
.....
.....
.....
指導にあたっては、
.....
.....

○題材観，児童生徒観，指導観の順に記述することもあるが，特別支援学級等においては児童生徒の実態から指導計画を立て，題材を設定していくことから，児童生徒観から書き始めることが望ましい。

【児童（生徒）観】

- ・人数，児童生徒の障害の状態や認知特性や行動特性，題材に対する興味・関心や経験，題材の目標に関してこれまで身に付けてきた力やまだ身に付けていない力など，児童生徒の実態を記述する。

【題材観】

- ・特別支援学校学習指導要領に示されている自立活動の内容（6項目26区分）と題材の関連，題材の内容分析や価値，これまで学習してきた内容との関連などを記述することで，身に付けさせたい力を育成するのに適した題材であることを示す。

【指導観】

- ・児童（生徒）観や題材観の記述を踏まえて，どのような題材構成にするのかを概観できるよう，以下の点を中心に記述する。
 - －本題材ではどのような力を育成するのか。
 - －その力を育成するために，児童生徒の実態（障害の状態や特性，興味・関心，これまでに学習した内容など）からどのような教材や学習活動を組み合わせて題材を構成するのか。
 - －その力を育成するために，児童生徒の実態（障害の状態や特性，興味・関心，これまでに学習した内容など）からどのような支援の手立てを講じるのか。
- ・小集団での学習の場合は，その意図や有効性を明確にし，記述する。

3 児童（生徒）の実態と個別目標

	題材における実態	題材における目標
A	<ul style="list-style-type: none"> ・題材に関する実態を，行動面（学習態度や取組の様子，認知特性や行動特性等）と学習面（学習レディネス等）の両面から記述する。 ・何がどこまでできているか，どんな方法ならできると記述する。 	○.....【3-(4)】
B		<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動は，個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な項目を選定して指導する。したがって，全体目標ではなく，個々にあった内容について，実態に応じた個別の目標を設定する。 ・選定した自立活動の内容（6区分26項目）を【 】内に記述する。
C		<ul style="list-style-type: none"> ・この単元（題材）において，どのような力を身に付けさせたいかについて記述する。 ・個別の指導計画の短期目標とのつながり（整合性）を意識して記述する。

4 指導計画と評価(〇〇時間扱い)

月	時間数	学習内容・活動	評価		
			A	B	C
9					
10 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・題材で指導する内容及び時間数を示す。 ・本時に関わる場所は，具体的な計画を示し，本時の前後にどのような指導をするかが明らかになるように記述する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画に基づき，題材における到達目標を記述する。 		
11					
12					

5 本時の指導

(1) 個別目標

- A : ○ 【3-(4)】
- B : ○ 【2-(2)】
- C : ○

・選定した自立活動の内容（6区分 26項目）を【 】内に記述する。
 ・題材の個別目標との整合性を意識する。

(2) 準備・資料

・本時の指導・支援は、全体と個別に分けるとその内容が明確になる。学習活動が個別化される際には、学習活動、指導上の留意点、個に応じた支援の手立てを個別化して示す。

(3) 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価 (◎評価)			
	全体	A	B	C
<p>1 ・学習意欲が喚起できるような課題提示を行う。</p> <p>2 ・児童生徒が、本時のめあてを意識し、学習の見通しがもてるようにする。</p> <p>3 ・話し合う、考える、作業をする、調べるなど多様な活動ができるようにする。 ・児童生徒の活動時間を多くとる。</p> <p>4 5 ・学習内容を整理しながら、本時の学習を振り返り、学習の成果を児童生徒が実感できるようにする。 ・次時への見通しがもてるようにするとともに、意欲が高まるようにする。</p>	<p>・各学習活動における個々の課題と指導上の留意点、個に応じた支援の手立てを示す。</p> <p>・個に応じた支援の手立ては以下の点に留意して、記述する。 ー児童生徒のつまずきを予想し、それに対応するための支援の手立てを具体的に記述する。 ー「励ます」「言葉かけをする」といった支援のほかに、一人一人の児童生徒の実態を踏まえて、得意な面を生かし苦手な面を補えるような内容も、具体的に記述する。 ー個別の教育支援計画に記載してある合理的配慮の内容を反映させる。 ー児童生徒の実態を踏まえた賞賛の仕方についても具体的に記述できるとよい。 ーチーム・ティーチングにて授業を行う場合は、教師間の役割分担についても記述する。</p> <p>・教材・教具などは写真や絵図で示すことも考えられる。</p> <p>◎..... ◎..... ◎.....</p> <p>・学習の方法、手順に基づき、主体的に学習に取り組むことができるようにする。</p> <p>・どのような場面で、どのような方法で、どのような観点で評価するかが分かるよう、具体的な評価規準を記述する。 ・評価は授業の終末だけでなく、途中においても行うことで、本時において目標が達成できるようにする。</p> <p>◎..... ◎..... ◎.....</p>			

(3) 自立活動を加味した教科別の指導及び各教科等を合わせた指導を行う場合

【学習指導案作成上の留意点】

- 学習指導案名は、「自閉症・情緒障害特別支援学級（学級名）数学科学習指導案」のように、教科名や生活単元学習を表記した学習指導案とする。
- 「2 単元（題材）について」に、自立活動に基づく指導を行う意図や、選定した自立活動の内容をどのように扱うか等について記述する。
- 児童生徒の実態とともに、自立活動に関する目標を記述する。（下記例）

4 児童(生徒)の実態と個別目標	
	実 態
A	<ul style="list-style-type: none"> ・単元（題材）に関する実態を、行動面（学習態度や取組の様子、認知特性や行動特性等）と学習面（学習レディネス等）の両面から記述する。 ・できることに着目して何がどこまでできているか、どんな方法ならできるかを記述する。 ・人数が多い場合は、学習内容等を項目に分けて、◎○△等で表記してもよい。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動は、個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な項目を選定して指導する。したがって、自立活動に関する目標は全体目標ではなく、個々にあった内容について、実態に応じた個別の目標を設定する。 ・自立活動の目標に関しては、選定した自立活動の内容（6区分26項目）を【 】内に記述する。 ・この単元（題材）において、どのような力を身に付けさせたいかについて記述する。 ・個別の指導計画の短期目標とのつながり（整合性）を意識して記述する。
C	<ul style="list-style-type: none"> ○ 【2-(1)】

- 本時の目標は、教科に関することと自立活動に関することの両面から設定し記述する。
- 本時の指導「展開」の、「個別の指導・支援と評価」の欄に、自立活動に関する支援についても記号等を工夫し明確に記述する。併せて自立活動の内容項目を【 】内に表記する。（下記例）

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価（◎評価 ☆自立活動に関する支援）			
	全 体	A	B	C
1				
2		<ul style="list-style-type: none"> ☆言葉の記憶が強いことを生かして、漢字の書き方を言葉で唱えて覚える方法を用いることで、漢字書き取りに関する成功体験を積み重ね、漢字を書くことに対する自信が少しずつもてるようになる。 【2-(1)】 ◎ 	◎	◎

(4) 各教科等を合わせた指導：生活単元学習指導案の例

・合同授業の場合、学級・教室毎に指導案を作成する。ただし、展開は合わせて作成してもよい。

知的障害特別支援学級（学級名）生活単元学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 単元名

○児童生徒の視点に立った表現を工夫する。
 ・活動がイメージしやすいような表現
 ・活動の意欲が高まるような表現
 [例]「紙すきをして手紙を書こう」
 「電車に乗って水族館へ行こう」

複数の時は
 T1 ○○ ○○
 T2 ○○ ○○

2 単元について（単元設定の理由）

本学級は、

 本単元では、

 指導にあたっては、

○単元観、児童生徒観、指導観の順に記述することもあるが、特別支援学級等においては児童生徒の実態から指導計画を立て、単元を設定していくことから、児童生徒観から書き始めることが望ましい。

【児童（生徒）観】
 ・人数、学習集団としての実態、児童生徒の障害の状態、発達の状態、認知特性、行動特性、単元に対する興味・関心や経験、単元の目標に関してこれまで身に付けてきた力やまだ身に付けていない力など、児童生徒の実態を記述する。

【単元観】
 ・単元の内容分析や価値、既習事項との関連などを記述することで、身に付けさせたい力を育成するのに適した単元であることを示す。

【指導観】
 ・児童（生徒）観や単元観の記述を踏まえて、どのような単元構成にするのかを概観できるように、以下の点を中心に記述する。
 -本単元ではどのような力を育成するのか。
 -その力を育成するために、児童生徒の実態（特性や興味・関心、生活経験など）からどのような教材や学習活動を組み合わせて単元を構成するのか。
 -その力を育成するために、児童生徒の実態（特性や興味・関心、生活経験など）からどのような支援の手立てを講じるのか。

3 単元の目標

・興味・関心を高め、意欲・態度を育成するという観点「～に関心をもつ」
 ・経験や体験を積んだり、慣れ親しんだりするという観点「～を経験する」
 ・特定の知識や技能を習得するという観点「～ができるようになる」

4 児童（生徒）の実態と個別目標

	単元における実態	単元における目標
A	<ul style="list-style-type: none"> 単元に関する実態を、行動面（学習態度や取組の様子、認知特性や行動特性等）と学習面（学習レディネス等）の両面から記述する。 できることに着目して、何がどこまでできているか、どんな方法ならできるかを記述する。 知識や技能に関することは、具体的な項目を表にして、◎○△等で表記してもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> この単元において、どのような力を身に付けさせたいかについて記述する。 個別の指導計画の短期目標とのつながり（整合性）を意識して記述する。
B		
C		

5 指導計画と評価（○○時間扱い）

第1次 ○時間
 第2次 ○時間

・単元（題材）で指導する内容及び時間数を示す。
 ・本時に関わる○次については、具体的な計画を示し、本時の前後にどのような指導をするかが明らかになるように書く。

時	主な学習内容・活動	主な評価		
		A	B	C
1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> どのような内容を学習するのか、主なものを記述する。 			
2				
2	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの時間でそれぞれの児童生徒にどのような力を身に付けさせたいかが明らかになるような評価規準を、具体的に記述する。 			
2				
第3次 ○時間				

6 本時の指導

(1) 目標

ア 全体目標

○ …… することができる。

イ 個別目標

A : ○ ……

B : ○ ……

C : ○ ……

- ・ 集団に関わる目標を記述する。
- ・ 単元の目標との整合性を意識する。

- ・ 単元の個別目標との整合性を意識する。
 - ・ 内容、方法、達成度を、誰が評価しても同じ評価ができるような具体的な行動目標で記述する。
- ☞ 授業づくり編Ⅱ-①「実態把握、目標設定の工夫」の「目標設定の工夫」参照

(2) 準備・資料

- ・ 本時の指導・支援は、全体と個別に分けるとその内容が明確になる。学習活動が個別化される際には、学習活動、指導上の留意点、個に応じた支援の手立てを個別化して示す。

(3) 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価 (◎評価)			
	全 体	A	B	C
1 ……	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学習活動における個々の課題と指導上の留意点、個に応じた支援の手立てを示す。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習意欲が喚起できるような課題提示を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた支援の手立ては以下の点に留意して、記述する。 <ul style="list-style-type: none"> － 児童生徒のつまずきを予想し、それに対応するための支援の手立てを具体的に記述する。 － 「励ます」「言葉かけをする」といった支援のほか、一人一人の児童生徒の実態を踏まえて、得意な面を生かし苦手な面を補えるような内容も、具体的に記述する。 － 個別の教育支援計画に記載してある合理的配慮の内容を反映させる。 － 児童生徒の実態を踏まえた賞賛の仕方についても具体的に記述できるとよい。 － ティーム・ティーチングにて授業を行う場合は、教師間の役割分担についても記述する。 		
2 ……				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒が、本時のめあてを意識し、学習の見通しがもてるようにする。 				
3 ……				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合う、考える、作業をする、調べるなど多様な活動ができるようにする。 ・ 児童生徒の活動時間を多くとる。 				
4 ……				
5 ……				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容を整理しながら、本時の学習を振り返り、学習の成果を児童生徒が実感できるようにする。 ・ 次時への見通しがもてるようにするとともに、意欲が高まるようにする。 				

- ・ 教材・教具などは写真や絵図で示すことも考えられる。

- ・ 学習の方法、手順に基づき、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

- ・ どのような場面で、どのような方法で、どのような観点で評価するかが分かるよう、具体的な評価規準を記述する。
- ・ 評価は授業の終末だけでなく、途中においても行うことで、本時において目標が達成できるようにする。